

〒434-0002 浜松市浜北区尾野 2597-7
☎053-583-0443 FAX 053-583-2700
http://kenritsu-shinrinkouen.jp/



ムササビだより



ニホンノウサギ

ウサギ目 ウサギ科
亜種 キュウシュウノウサギ



2019/10/04 20:06 撮影
草を食べているようにも見えます。

日本固有種です。園内で見られるのは夏・冬ともに茶色い毛の亜種キュウシュウノウサギです。夜行性で、日暮れからえさ探しを始めます。巣穴は持たず、くぼ地などで子育てします。まれに積雪があると、足跡が見られることがあります。



「食ふん」という性質があり、ふんを2回します。最初のふんはおしりからでるとすぐに自分で食べてしまいます。野外で見かける丸いふんは二度目のものです。



ウサギの足跡

ニホンザル

サル目 (霊長目) オナガザル科
亜種 ホンドザル



2019/06/19 07:158 撮影
お尻の赤いのが特徴です。

日本固有種です。人間以外の霊長類の生息地としては青森県下北半島が世界最北のニホンザルは、スノーモンキーと呼ばれます。園内では東側エリアで見かけることが多いです。日中に群れで活動し、日没後は、樹上や岩場をめぐらします。秋から冬の交尾期には、特徴である顔とおしりの赤味はより強くなります。草や冬芽、木の実、樹皮、昆虫などを食べます。



2019/10/07 15:53 撮影
木の实でも見つけたのでしょうか？



2019/10/10 3:40 撮影
水たまりにでも座ったのか、泥の線がつかまりました。

イノシシ

鯨偶蹄目 イノシシ科
亜種ニホンイノシシ

森の散策時によく見かけるのがイノシシの堀跡です(右写真)。イノシシは鋭い嗅覚の鼻や切歯を使って木の根やミズ、昆虫の幼虫などを食べるようです。



静岡県立森林公園
定点カメラがとらえた



ケモノ

静岡県立森林公園には、多くのケモノ(哺乳類)が生息しています。普段の森歩きでそれらに出会うことはなかなかありませんが、園内に設置された赤外線感知のセンサーカメラ(環境省モニタリングサイト1000里地調査)には、その自然な姿が多く撮影されています。ここではそれらの画像の一部を紹介いたします。ケモノたちの息づかいをぜひ感じてみてください。



モニタリングサイト1000

「モニタリングサイト 1000 里地調査」とは

環境省が実施する調査です。里山の自然環境を長期(100年)にわたり調べ、生物多様性の保全施策に役立てることを目的としています。静岡県立森林公園では、2008年から本調査に参加しています。



参考文献:

「日本動物大百科第1巻 哺乳類」日高敏隆監修(平凡社)「日本動物大百科第2巻 哺乳類II」日高敏隆監修(平凡社)「自然観察シリーズ 10 日本の動物・哺乳類」増井光子著(小学館)「アニマル・ウォッチング 日本の野生動物」安間繁樹著(晶文社)「哺乳類のかたち種を識別する図と鑑」川口敬著(文一総合出版)「小学館の図鑑NEO 動物」根本徹・北川吉隆他著(小学館)「哺乳類のフィールドサイン観察ガイド」熊谷さとし・安田守・阿部浩志著(文一総合出版)「哺乳類観察ブック ニッポン里山探検隊シリーズ・1」熊谷さとし著(人類文化社)

センサーカメラにより撮影された哺乳類の写真は、環境省、公益財団法人日本自然保護協会の協力のもと掲載しています。ここに深く感謝の意を表します。

イノシシ掘返し、頭骨、タヌキ足、イタチふん、ウサギふんの写真はすべて静岡県立森林公園撮影。

ビジターセンター バードピア 浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料：無料
- 開館時間：9:00~16:30
- 休館日：毎週水曜(祝日の場合は翌日)と年末年始(12/29~1/3)
- 問合せ：☎ 053-583-0443

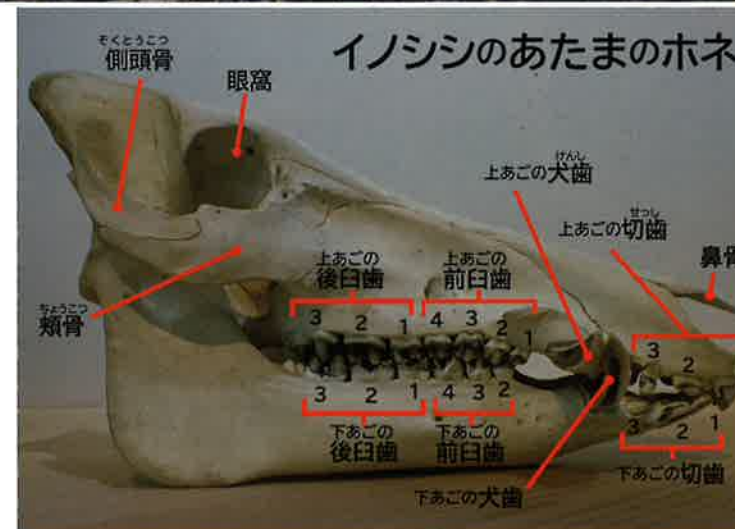
木工体験館

気軽に木工作業を楽しむことができます。工具はそろっているので、手ぶらでお立ち寄りください。

- 木工：金・土・日
- 開館時間：9:00~16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
- 休館日：月・火・水と年末年始(12/29~1/3)
- 問合せ：☎ 053-583-1559

ムササビだより 22号 発行 2022年2月1日発行 静岡県立森林公園バードピア 発行部数：1700部

監修 / 澤井謙二 執筆・編集・デザイン・制作 / 瀬下亜希



頭骨提供・澤井謙二氏

ニホンカモシカ

鯨偶蹄目 ウシ科



2018/09/10 11:46 撮影
シカと違い、ツノは生まれてから生え変わることはなく、一生成長し続けます。

国の特別天然記念物に指定されている日本固有種。園内では日中に姿を見ることがあります。シカとつきませんがウシの仲間です。乱獲により幻の動物とされた時期もありますが、近年、広く見られるようになりました。

ニホンジカ

鯨偶蹄目 シカ科
亜種 ホンシュウジカ



2018/7/5 9:47

2017/10/17 04:48 撮影
立派なツノを持つ5歳以上と思われるオスのシカ。

2018/07/05 09:47 撮影
夏はまだ皮膚がかぶった袋角(ふくろづの)です。

全国各地で増加傾向にあるシカ。園内では2012年にセンサーカメラによる撮影で初確認されて以降、毎年確認されています。イネ科やササなどを食べる草食性です。反芻胃を持つため、そこに共生する微生物により植物のセルロースを分解するのだそうです。

タヌキ

ネコ目(食肉目) イヌ科
亜種 ホンドタヌキ



前足の指は5本 後足の指は4本

←第1指は地面につかない

タヌキの足は、前足よりも後足のほうが縦長。足跡は爪あとがハッキリつきます。これはネコとの違いでもあります。

2017/10/17 20:22 撮影
日没後に活動開始する夜行性のため園内で姿を見ることはほとんどありません。

2017/10/23 18:51 撮影
オスは尿でマーキングします。

日本に生息するイヌ科はキツネとタヌキのみ(オオカミは絶滅)。タヌキは最も原始的なイヌ類と考えられているそうです。巣穴は自分では掘らず木の根元やくぼみ、アナグマの古巣などを使うようです。尾根などに、ためふん場所(複数の個体が共同で使うトイレ)が見られることがあります。

アカネズミ・ヒメネズミ

ネズミ目(齧歯目) ネズミ科



2018/10/03 17:08 撮影
2頭で連れ立って走り去る。

園内ではアカネズミとヒメネズミの生息が確認されています。どちらも日本の山に暮らす代表的なネズミで、日本固有種です。ヒメネズミはアカネズミの体重の3分の1程度と小さく細身であるなど特徴はあるものの、両種を正確に見分けるには頭骨の形の確認等が必要です。アカネズミは地上で種子や昆虫をとる一方、ヒメネズミは木登りも得意とするようです。

園内で確認されている哺乳類

静岡県立森林公園では13科20種の哺乳類が確認されています。

オナガザル科	ニホンザル
ウサギ科	ニホンノウサギ
リス科	ニホンリス
	ムササビ
ネズミ科	アカネズミ
	ヒメネズミ
	カヤネズミ
モグラ科	ヒミズ
	コウベモグラ
キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ
ジャコウネコ科	ハクビシン
イヌ科	ホンドタヌキ
	ホンドギツネ
イタチ科	ニホンイタチ
	ニホンテン
	アナグマ
イノシシ科	イノシシ
シカ科	ニホンジカ
ウシ科	ニホンカモシカ
アライグマ科	アライグマ ※特定外来生物

(2022年2月現在)

イタチ類

ネコ目(食肉目) イタチ科



冬に見られたふん。マンリョウ(植物)、ハナミョウガ(植物)のタネが含まれていました。夏のふんには甲虫の翅などが見られます。

2017/06/22 18:52 撮影
右写真の3分前、ニホンテンがよく使う場所にイタチが現れました。

ニホンイタチは日本固有種です。園内では、水辺付近で泳ぐ姿やカエルなどを食べる姿がたびたび目撃されています。オスは頭胴長25~35cm、メスは頭胴長19~25cmと大きさがずいぶん違います。肛門には臭腺があり、きつい臭いを出します。マーキングなどに用いるようです。

ニホンテン

ネコ目(食肉目) イタチ科



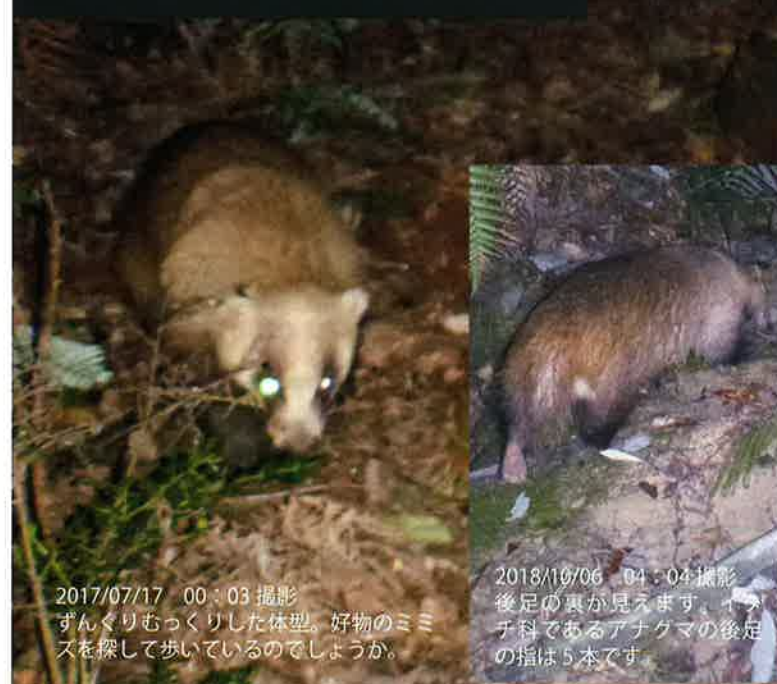
2017/06/22 18:55 撮影
左写真イタチの3分後にニホンテンが現れました。イタチを意識してでしょうか？尾を立て、緊張した様子が見られます。

樹上性の動物です。鋭いかぎ爪を使って木の幹を垂直に登り降りできます。夜行性とされますが、朝の明るい時間帯にも活動が撮影されています。

2017/07/19 06:39 撮影
黒い顔をしています。

ニホンアナグマ

ネコ目(食肉目) イタチ科



2017/07/17 00:03 撮影
ずんぐりむっくりした体型。好物のミミズを探して歩いているのでしょうか。

2018/10/06 04:04 撮影
後足の裏が見えます。イタチ科であるアナグマの後足の指は5本です。

日本固有種です。一般に、タヌキ汁とはニホンアナグマの鍋を指すらしく、地域名「マミ」の語源は「旨味」とも。動きが緩慢なため、捕らえられやすいということもあるのかもしれませんが。長い爪で穴を掘り、ミミズ、軟体動物、昆虫、ヒミズ、カエルなどを食べるようです。

ハクビシン

ネコ目(食肉目) ジャコウネコ科



2018/08/19 19:26 撮影
「白鼻心」と書く通り、顔の正中線が白のが特徴です。

2017/06/23 22:39 撮影
尾の長いハクビシン。ニホンテンも利用する木をハクビシンも使っているようです。

東南アジア原産の帰化種と考えられている、ジャコウネコ科の動物です。夜行性とされています。後足の足の裏に剛毛があり、これが滑り止めの役割を果たすと考えられています。得意の木登りで屋根裏にも入り込み、また果実を好む為、人家付近でも見られます。